

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800629	事業の開始年月日	平成16年3月1日	
		指定年月日	平成16年3月1日	
法人名	医療法人社団 朝菊会			
事業所名	グループホーム 池辺			
所在地	(〒224 -0053) 神奈川県横浜市都筑区池辺町2218			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和7年1月15日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>できる限り利用しやすいよう、家賃等の利用料は低額に設定しております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年2月20日	評価機関 評価決定日	令和7年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇食事を通した利用者の健康維持・増進への支援 ・利用者の健康維持・増進のため、毎日の楽しみとしている食事に配慮している。職員は食材の買い付けをおこない、全て手作りの食事を提供している。食事のメニューは利用者が何を食いたいかを、日常の会話で把握し提供している。その日の食事メニュー版の横に利用者の名前を記入し、どなたの要望か全員が知ることが出来るようになっている。利用者の誕生日には、朝、昼、夜に食いたい料理の希望に応じて、提供している。 ◇多彩な年間行事 ・利用者にとって外出は楽しみのひとつとなっており、事業所も利用者の健康を考えて外出の行事を積極的に企画している。春のいちご狩り、お花見、ピクニック、バーベキュー大会(家族、地域、約30名参加)、紅葉狩り、餅つき大会など、職員の企画で推進している。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇職員自主企画の研修 ・事業所内研修は、職員のアンケートに基づき年間研修計画を作成し、毎月実施している。職員全員が講師となり順番に担当し、参加者は研修報告書を作成している。事業所内研修を実施することで、職員の知識とケア意識の向上を図り、介護に活かしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 池辺
ユニット名	2階（ばら）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有した上で年間の介護目標をスタッフによる話し合いで決め、それらを意識したケアを行っている。 今年度は外出援助の充実、スタッフ間での報連相の徹底を年間目標としている。	・法人理念「自由にありのままにその人らしく」を2階玄関と3階入口に掲示し、今年度の事業所理念は事務室に掲示している。 ・毎年4月に法人理念に添った事業所理念を職員からアンケートをとり、今年度は「報連相の徹底」を目標としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、ボランティア等の受け入れを自粛した。 代案として室内行事を中心に変更し、入居者ご家族や地域住民を招き、オヤツを食べたり、レクリエーションに参加していただいた。	・家族と地域住民に事業所内行事のバーベキュー大会や餅つき大会に声かけしている。 ・地域行事の盆踊りに利用者も参加し楽しんでいる。 ・近隣3自治会と消防応援協力に関する覚書を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内への回覧板やチラシにより協力を得ている。 今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、地域開催の講演会は自粛した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方や自治会、地域包括支援センターに向けて実施した行事等の施設の取り組みや外部評価結果を報告している。報告を受け、頂いた意見は職員へ通達し日常業務に役立っている。	・運営推進会議は2か月に1回開催している。会議には地域代表、家族が参加し、地域包括支援センター、福祉保健センターにも連絡している。 ・家族より、乾燥がひどいので居室に加湿器を置いて欲しいとの要望があり事業所に対応した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解決困難な問題が発生した際は区役所の窓口まで直接出向き、意見を頂いている。	・都筑区生活支援課の担当者から電話で手続きの連絡があり、年に数回来所し面談している。 ・高齢・障害支援課とは、精神状態が悪化した利用者の暴力問題等について事前に相談するなど、問題発生時に連携できる体制になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	令和元年10月に身体拘束・虐待防止委員会を立ち上げる。 3ヶ月に1回、関連老健と共同で会議と勉強会を行い、日常のケアの中で不適切なケアはないかを話し合い、フロア会議にて報告し、職員全体の共通理解に努めている。	・身体拘束防止委員会を3か月に1回開催している。事務長か管理者がフロア会議で職員に周知して、ケアに繋げている。 ・身体拘束に関する職員研修は年間計画に基づき開催している。グループの老健の研修にも参加している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部、外部で研修を行っている。 不適切な声掛けがあった際はその場にいる職員が注意した後、職員会議にて事例検討等で話し合い、虐待のない介護の実施に努めている。	・虐待防止委員会を3か月ごとに開催している。職員は虐待防止自己チェックシートを活用し点検をしている。事例検討会で話し合い、虐待防止マニュアルで学んでいる。 ・不適切な言葉があった場合は管理者がその場で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や制度についての研修に参加し、職員に伝達している。必要な方がそれらの活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談時に口頭で説明し、入居時に文書と口頭にて再度説明している。問い合わせを受けた際はその都度説明を行い、ご家族の不安や疑問点の解消に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	人数制限は行っているが、居室にて面会を行っている。	・食事のメニューなど、利用者の要望にできるだけ応えている。 ・家族には生活状況を報告し、家族から意見や要望を聞くようにしている。家族はコロナ禍の時は、居室に訪問できなかったが、現在は自由に訪問できるようになり喜んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回スタッフとの個人面談を実施している。面談の内容を集約したものを全体会議で議題として取り扱い、問題の改善に努めている。 コロナウイルス感染症予防のため会議が行えない際は、各フロアに意見要望を聞き対応に努めている。	・職員にアンケート用紙を渡し、年に1回4月に個人面談をしている。日常会話の中で職員の意見を聞いて施設運営に反映している。 ・職員の意見で、連休が欲しい、手作りの食事メニューを充実したいとの意見があり、改善に努めている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議に参加し、管理者や職員の意見を確認している。また日常よりコミュニケーションを取り、意見交換をしている。	・介護福祉士、ケアマネの資格希望者には受講しやすいシフトを組み、資格取得後は給料に反映している。 ・職員の人事評価は、4月の面談時に話し合うようにしている。 ・買い物用に台車を買って欲しいとの職員提案があり購入した。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修への参加、日々のサービスを振り返り、技術向上、質の向上に努めている。不明な点が出た際は都度指導とアドバイス等を行っている。	・新人職員は本部研修を受け、事業所内のOJTでケア技術を学んでいる。 ・内部研修は、職員が講師となり毎月全員が出席して開催している。 ・グループの老健研修には、毎月7～8名が参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム連絡会や県のグループホーム協議会に入会し、リモート研修での意見交換や他施設への相談等を行っている。そこで出た意見や得た知見を取り入れ、サービスの品質向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や入所時に本人と家族から要望を傾聴し、複数名の職員のカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場になり、傾聴の姿勢でゆっくりお話を聞くようにしている。不明な点はできるだけ明確にわかりやすく説明するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題点を細かく検討し、ご本人、ご家族と相談した上でどのような支援が必要か見極めている。どのスタッフが対応に当たっても同じケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に過ごす時間を多く作り、料理や裁縫等を学んだり、教えていただいている。入居者の方々に役割を持って頂き一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回、便りを作成し、入居者様の施設内での様子や行事に参加した際の様子を報告している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防のため外出、面会の制限をしていた。そのため、ご家族や友人への電話連絡及びお手紙でのやりとりについて取次を行っていい。	<ul style="list-style-type: none"> ・親族から毎週のようにハガキが届いている利用者もいる。 ・友人が面会に来た場合は、家族に了解を取ってから面会をするようにしている。 ・イベントの写真を載せた「池辺便り」を年4回家族に送付している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	将棋や音楽鑑賞など共通の趣味活動やレクリエーション、清掃等、一人一人が孤立しないよう支援し、交流の場を多く設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡をし、相談等を受け支援している。施設やご自宅へ退居後の様子を伺い、必要に応じて情報提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の中でご本人の言動を確認し、気づいた事や家族からの要望をスタッフ全員が把握できるように連絡ノートを用意してある。農家の仕事をしてきた入居者は菜園の手伝いをしてもらっている。	・職員は日常会話から利用者の意向や要望を確認して、連絡ノートを用いて情報を共有している。 ・菜園で野菜作りを希望する利用者には、何を植えたいかを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力して頂き、生活歴等の把握に努めている。ご本人との会話の中での気付きも大切にしている。アセスメントにも状況を記載し、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送り等を確実にいき、カンファレンス、職員会議等で話し合い、状態の把握に努めている。またリスクマネジメント表を作成し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族に相談し、要望を取り入れ、毎月のフロア会議で職員間で意見交換をし介護計画書を作成している。	・介護計画は、利用者・家族の意向、医療関係者の意見をもとに毎月のフロア会議でモニタリング、カンファレンスを行い、作成している。 ・計画は、短期6か月、長期1年で作成し、体調の変化があれば家族と話し合い随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録、投薬表、身体状況チェック表等、個別に記録しており、介護計画作成時にはアセスメント表を使用し、身体状況の変化を見ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADL低下等ご本人に変化がみられ当施設での生活が困難になった時、ご家族からの要望等があった時はご家族へ情報提供を行い、ご本人に合ったサービス提供ができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的機関からの協力は必要に応じ要請している。ボランティアに関しては、併設老健施設等や社会福祉協議会に協力を依頼している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時や入居時にご家族とご本人へ確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。併設のクリニックで3ヶ月に1回定期受診を行い、健康管理に努めている。 また、外部受診が必要な場合ご家族に対応いただいている。	・入居時に説明して同意を得、全員が協力医をかかりつけ医とし、3か月ごとに定期受診している。 ・訪問歯科・訪問看護が隔週来訪し、健康維持に努めている。 ・同一敷地内のクリニックと24時間連携体制で急変時に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するクリニックの医師、看護師と気軽に相談できるシステムを作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医やケースワーカーとの連携を図り、ご家族との話し合いにて早期退院できるよう支援している。退院後の対応困難な場合は他施設の紹介やサービス等の利用を相談している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を確認し、医療機関の協力のもと全員で方針を共有している。また医療機関に相談、連携のもと支援している。	・重度化した場合の指針や生活の中でのリスクを入居時に説明し、利用者・家族の同意・確認を得ている。 ・病状が悪化して入院や常時医療行為が必要になった場合は医師の判断をもとに、介護施設への入所等家族と事業所で対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会を開催し、定期的に訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、BCP計画についての勉強会を行っている。また地域の自治会と「消防応援協力」の協定を結んでおり、災害時の相互協力を確立している。	・事業継続計画を策定し、研修で災害時の対応を学んでいる。食料・備蓄品をリスト化し、管理している。 ・消防応援協力を結んでいる自治会の協力を得て、夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施している。消防署の消火器訓練を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の中でご本人の言動を確認し、気づいた事や家族からの要望をスタッフ全員が把握できるように連絡ノートを用意してある。好みのTV番組などは録画保存し繰り返し楽しんで頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護マニュアルを作成し、考え方、入浴・排泄時の取組方法を明示している。 ・個人に関する話は他の人の前でしない、聞こえないよう注意することを研修で学び、介護実践に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はプライバシー保護マニュアルを用いて研修を行い、利用者の人格尊重とプライバシー確保についての学びを続けていますが、プライバシー保護のため、個人に関する記録をする場所の検討が望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が混乱しないように声かけと説明を行いながら決めて頂いている。お話を聞く際はご本人にとって言いやすい職員が対応にあたるなど環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ、体操等は予定された時間があるが本人の希望によっては調整して対応している。その他の時間は、入居者が各々ご自身のペースで生活されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな色や服の趣味を確認し、更衣時の衣類の選択と一緒にやっている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、盛りつけ等工夫をし、楽しんでいただけるように努力している。個々の能力を活かし、片づけ、調理等行ってもらっている。なるべく職員も一緒に食事を取るようにしている。また、会話の中で食事のリクエストを聞き出来る限り対応し提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は手作りで、日常会話から聞き取った利用者の好みを職員が作成する献立に取り入れている。敷地内の菜園で収穫した野菜や竹林のたけのこ料理で季節感を楽しんでいる。 ・利用者には安全を優先して下膳など、できることに取り組んでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の好き嫌いが多い方々がいらっしゃるため、その方が好む食事の提供、また随時、管理栄養士にチェックしてもらっている。刻み食やとろみ等個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の医師からのアドバイスを聞き、口腔ケア介助を徹底している。食前のうがいや食後の口腔ケアの声かけ、介助を徹底している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	言葉遣い、介助方法等、自尊心を傷付けないよう注意し行っている。全てのスタッフが同じサービスを提供できるよう、会議で話し合いをし支援の内容を統一させている。	・チェックリストで排泄パターンを把握している。 ・支援の統一を図り、自尊心に配慮した声かけに努め、見守り、誘導、声かけを個別に応じて行っている。 ・退院後、リハビリパンツから布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態、食事量、水分量の把握に努め、体操やマッサージ等を行っている。また、排泄チェックを行い、便秘が続いている場合クリニック受診を行い、相談をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に沿い、同性介助や入浴拒否の対応に当たっている。また柚子湯など、季節を感じられる入浴方法を取り入れている。	・入浴は週3回を基本とし、利用者の希望を優先してシャワー浴、清拭も取り入れている。入浴を好まない利用者には、時間をずらしたり声かけする職員を変えて対応している。 ・利用者が職員と個別に話しができリラックスする場となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等、注意しながら調整している。共有スペースでの休息も取れるよう工夫している。個々の生活習慣を把握し、できる限りの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一包化を徹底しており、内服薬準備も2名で行っている。与薬の際は職員が確認し誤薬防止に努めている。投薬表にチェックを行い、変更時等申し送り等にて職員が再確認するよう徹底している。薬剤師に協力して頂き、副作用、用法等の指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備や清掃等個々に役割を持って頂き、張り合いを持って頂けるよう支援している。日用大工や裁縫等、日常生活に取り入れ職員と一緒にやり支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や買い物の同行等は、コロナウイルス感染症予防のため控えている。人混みを避け、公園や神社、イチゴ狩りなどは実施予定。 天候が良い日に散歩を行い近隣の方との挨拶、会話を行っている。	・感染症拡大防止のため、買い物などの外出は控えているが、人混みを避け、外出行事を行っている。 ・季節感を味わえるよう、いちご狩りや紅葉狩り、初詣、梅見に出かけている。 ・希望を聞き近隣を散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方にはご自身で保管していただいている。難しい場合は事務所で預かりし、買い物の際など必要に応じてお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染症予防のため、面会頻度が減ったため、電話で話せるよう支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節ごとの利用者の作品や書を展示し、ゆったりとくつろいで過ごせるよう生活感のある雰囲気作りを工夫している。日差しやテレビの音量などは、希望に応じて調整している。	・フロアは明るく清潔で、掃き出し窓からは樹木や公園が見え、四季の変化を知ることができる。職員がベランダで洗濯物を干している様子も見られる。 ・テーブル、ソファを配置しゆったりと過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置き、のんびりできるスペースを作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や寝具、生活用品など使い慣れた物をご持参いただいている。 普段の臥床位置や入居者の意見を考慮し、ベッドや家具の位置を変更している。	・利用者は写真やテレビ、時計、本棚、ダンス、ふとん等、使い慣れた好みの物品を持ち込んでいる。加湿器を持ち込んでいる方もいる。 ・利用者・家族と相談し、安全や動線に配慮して家具の設置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行のさまたげになる物は置かず、安全整備の徹底をしている。 手すり等の点検も定期的に行っており、自立した生活を送って頂けるよう支援している。		

事業所名	グループホーム池辺
ユニット名	3階（ゆり）

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらい
	3, 利用者の1/3くらい
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有した上で年間の介護目標をスタッフによる話し合いで決め、それらを意識したケアを行っている。 今年度はコロナ禍でのレクレーションの充実を目標としている。実施した内容は記録に残し、入居者の満足度向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、外出レクやボランティア等の受け入れを自粛した。 代案として室内行事を中心に変更し、お散歩の際に近隣住民と挨拶をしたり餅つきのおすそ分けをするなどした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内への回覧板やチラシにより協力を得ている。 今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、地域開催の講演会は自粛した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方や自治会、地域包括支援センターに向けて実施した行事等の施設の取組みや外部評価結果を報告してる。報告を受け、頂いた意見は職員へ通達し日常業務に役立っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解決困難な問題が発生した際は区役所の窓口まで直接出向き、意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	令和元年10月に身体拘束・虐待防止委員会を立ち上げる。 3ヶ月に1回、定期的に会議と勉強会を行い、日常のケアの中で不適切なケアはないかを話し合い、フロア会議にて報告し、職員全体の共通理解に努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部で研修を行っている。 不適切な声掛けがあった際はその場にいる職員が注意した後、職員会議にて事例検討等で話し合い、虐待のない介護の実施に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や制度についての研修に参加し、職員に伝達している。必要な方がそれらの活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談時に口頭で説明し、入居時に文書と口頭にて再度説明している。問い合わせを受けた際はその都度説明を行い、ご家族の不安や疑問点の解消に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会を希望される家族から「回数を増やしたい」という要望があり、月に1回だった面会を2回に増やせるよう調整を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回スタッフとの個人面談を実施している。面談の内容を集約したものを全体会議で議題として取り扱い、問題の改善に努めている。 また、毎月フロア会議を行い、議題に上ったことを管理者に伝えている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議に参加し、管理者や職員の意見を確認している。また日常よりコミュニケーションを取り、意見交換をしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修への参加、日々のサービスを振り返り、技術向上、質の向上に努めている。不明な点が出た際は都度指導とアドバイス等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム連絡会や県のグループホーム協議会に入会し、リモート研修での意見交換や他施設への相談等を行っている。そこで出た意見や得た知見を取り入れ、サービスの品質向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や入所時に本人と家族から要望を傾聴し、複数名の職員のカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場になり、傾聴の姿勢でゆっくりお話を聞くようにしている。不明な点はできるだけ明確にわかりやすく説明するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題点を細かく検討し、ご本人、ご家族と相談した上でどのような支援が必要か見極めている。どのスタッフが対応に当たっても同じケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に過ごす時間を多く作り、料理や裁縫等を学んだり、教えていただいている。入居者の方々に役割を持って頂き一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回、便りを作成し、入居者様の施設内での様子や行事に参加した際の様子を報告している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防のため外出、面会の制限を設けており外部の方との交流が出来ずにいる。そのため、ご家族や友人への電話連絡等の支援を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	将棋や音楽鑑賞など共通の趣味活動やレクリエーション、清掃等、一人一人が孤立しないよう支援し、交流の場を多く設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡をし、相談等を受け支援している。施設やご自宅へ退居後の様子を伺い、必要に応じて情報提供している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン担当者を中心に1人1人話を聞き本人が望んでいることややりたいことを聞き出し、フロア会議や日々の申し送りで情報を共有し実現可能なものを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力して頂き、生活歴等の把握に努めている。ご本人との会話の中での気付きも大切にしている。アセスメントにも状況を記載し、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送り等を確実にし、カンファレンス、職員会議等で話し合い、状態の把握に努めている。またリスクマネジメント表を作成し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族に相談し、要望を取り入れ、毎月のフロア会議で職員間で意見交換をし介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録、投薬表、身体状況チェック表等、個別に記録しており、介護計画作成時にはアセスメント表を使用し、身体状況の変化を見ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADL低下等ご本人に変化がみられ当施設での生活が困難になった時、ご家族からの要望等があった時はご家族へ情報提供を行い、ご本人に合ったサービス提供ができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的機関からの協力は必要に応じ要請している。ボランティアに関しては、併設老健施設等や社会福祉協議会に協力を依頼している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時や入居時にご家族とご本人へ確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。併設のクリニックで3ヶ月に1回定期受診を行い、健康管理に努めている。 また、外部受診が必要な場合ご家族に対応いただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するクリニックの医師、看護師と気軽に相談できるシステムを作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医やケースワーカーとの連携を図り、ご家族との話し合いにて早期退院できるよう支援している。退院後の対応困難な場合は他施設の紹介やサービス等の利用を相談している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を確認し、医療機関の協力のもと全員で方針を共有している。また医療機関に相談、連携のもと支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会を開催し、定期的に訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、勉強会を行っている。また地域の自治会と「消防応援協力」の協定を結んでおり、災害時の相互協力を確立している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の取扱いについてのマニュアルを作成し、自尊心を傷つけない言葉掛けに配慮している。トイレ誘導時も他者に気づかれない様な声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が混乱しないように声かけと説明を行いながら決めて頂いている。お話を聞く際はご本人にとって言いやすい職員が対応にあたるなど環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ、体操等は予定された時間があるが本人の希望によっては調整して対応している。その他の時間は、入居者が各々ご自身のペースで生活されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな色や服の趣味を確認し、更衣時の衣類の選択と一緒にやっている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、盛りつけ等工夫をし、楽しんでいただけるように努力している。個々の能力を活かし、片づけ、調理等行ってもらっている。なるべく職員も一緒に食事を取るようにしている。また、会話の中で食事のリクエストを聞き出来る限り対応し提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の好き嫌いが多い方々がいらっしゃるため、その方が好む食事の提供、また随時、管理栄養士にチェックしてもらっている。刻み食やとろみ等個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の医師からのアドバイスを聞き、口腔ケア介助を徹底している。食前のうがいや食後の口腔ケアの声かけ、介助を徹底している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、尚且つプライバシー保護に注意しながら対応している。言葉遣い、介助方法等、自尊心を傷付けないよう注意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態、食事量、水分量の把握に努め、体操やマッサージ等を行っている。また、排泄チェックを行い、便秘が続いている場合クリニック受診を行い、相談をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に沿い、同性介助や入浴拒否の対応に当たっている。また柚子湯など、季節を感じられる入浴方法を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等、注意しながら調整している。共有スペースでの休息も取れるよう工夫している。個々の生活習慣を把握し、できる限りの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一包化を徹底しており、内服薬準備も2名で行っている。与薬の際は職員が確認し誤薬防止に努めている。投薬表にチェックを行い、変更時等申し送り等にて職員が再確認するよう徹底している。薬剤師に協力して頂き、副作用、用法等の指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備や清掃等個々に役割を持って頂き、張り合いを持って頂けるよう支援している。日用大工や裁縫等、日常生活に取り入れ職員と一緒にいき支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や買い物の同行等は、コロナウイルス感染症予防のため控えている。人混みを避け、公園や神社、イチゴ狩りなどは実施予定。 天候が良い日に散歩を行い近隣の方との挨拶、会話をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方にはご自身で保管していただいている。難しい場合は事務所でお預かりし、買い物の際など必要に応じてお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染症により、面会頻度が減ったため、電話で話せるよう支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節ごとの利用者の作品や書を展示し、ゆったりとくつろいで過ごせるよう生活感のある雰囲気作りを工夫している。日差しやテレビの音量などは、希望に応じて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置き、のんびりできるスペースを作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や寝具を持って来ていただき使用して頂いている。生活用品も使い慣れた物を使用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行のさまたげになる物は置かず、安全整備の徹底をしている。 手すり等の点検も定期的に行っており、自立した生活を送って頂けるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム池辺

作成日 令和7年3月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	17	入居者を見守りしながら、個人記録を記載することがあるため、プライバシーの保護ができていない。	プライバシー保護を徹底する。	個人記録を記載する時は事務室内で行う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。